

マイナス金利百景

「家賃収入を生む絶好のチャンスが到来した」。中古マンション販売・管理の日本財託グループ（東京都新宿区）が都内で開いた会社員向けの不動産セミナーは熱気に包まれた。「サラリーマン大家」として本業以外の収入を増やそうと、1200人の定員に200人以上が応募。マイナス金利政策でローン金利が急低下するなかで、局所バブルの様相を示している。

不動産投資の過熱を象徴

過熱する不動産投資



するのが保有資産10億円超の「メガ大家」だ。2007年に投資を始めた東京都港区の男性（55）は約180室、約20億円分の不動産

都内で開いた不動産投資セミナーは熱気に包まれた

を持つ。株式や外国為替証拠金（FX）取引も試したが、不動産だけが成功。12年に脱サラして本業が不動産賃貸業になった。

「メガ大家」の名付け親で自らも不動産賃貸業を手がける寺尾恵介さん（43）は「ここ数年で保有資産の規模拡大に拍車がかかっている」と指摘する。不動産投資を新たに始める会社員にとってメガ大家は憧れの存在になっている。もっともメガ大家にはマ

「メガ大家」へ 群がる会社員

マイナス金利政策が悩みの種にもなっている。大量の新規参入で一部の不動産価格が高騰。例えば東京都中央区の中古マンションでは、この8年で価格が2倍に高騰した物件もある。

メガ大家になった港区の男性は「異常な値上がりを示す物件が増えている。どこかで調整があるかも」と懸念を示す。膨らむのも速いが、縮むのはもっと速いというのが過去のバブルの教訓だ。（随時掲載）
（電子版▼マーケット↓為替・金融↓マイナス金利百景）